

第3期第17回生涯学習センター運営協議会 議事要旨

〔日 時〕2018年2月19日（月）10:00～12:00

〔場 所〕生涯学習センター 学習室2

〔出席者〕※敬称略

委 員：岩本 陽児、太田 まゆみ、大野 浩子、白崎 好邦、島田 忠次、辰巳 厚子、
中村 香、前田 美幸、柳沼 恵一
以上 9名

事務局：板橋センター長、小林管理係長、松田事業係長、高木担当係長、中野担当係長、
岩田担当係長、齊藤主任（記録）

〔欠席者〕上村 まり、陶山 慎治、中里 静江
以上3名

〔傍聴人〕1名

〔資 料〕

- ・ 下半期事業報告資料
 - 公民館事業（資料1）
 - 市民大学HATS（資料2-1～2）
 - ことぶき大学事業（資料3）
 - 生涯学習推進事業 施設貸出事業（資料4）
- ・ 第3期町田市生涯学習センター運営協議会報告書【案】
 - ー地域における学習支援のための生涯学習センターの役割と機能について（仮）ー
- ・ 2017年度 家庭教育支援事業 運営委員会事業報告資料（当日資料）
- ・ 都公連の活動について（当日資料）
- ・ チラシ（当日資料）
 - “ひき町”で語ろう！
 - 学生活動報告会ーガクマチEXPOー
- ・ 2017年度 町田市障がい者青年学級成果発表会の出席について（お願い）

会 長：今期も残すところあと2回となった。今回は下半期の事業報告と報告書の議論をいたしたい。
3. 報告事項（2）の生涯学習運営審議会の議論については明後日2月21日（水）に開催されるので今回は割愛する。では最初の議題、下半期の事業報告について事務局から報告していただきたい

議題

1. 下半期の事業報告について

事務局：「公民館事業」から説明いたしたい。

・「まちチャレ」について。前年度までの市民企画講座のこと。今年度は地域の課題を取り上げることを優先する。選定方法としては5人の運営協議会委員の方にご参加いただいて、講座を5つ開催した。①「体の仕組みを学んでおいしい介護食をつくろう」は調理実習を中心の講座。②「健康寿命を伸ばして生涯現役」は改築したばかりの成瀬のコミュニティセンターで開催し、懐メロを歌いマジックやヨガを行った。受付開始2時間で満員となる人気であった。③ひなた村や木曾山崎センター、小学校の特別開放教室を活用した「はじめてのソフトダーツ体験講座」は、多世代の交流が出来て、大変盛り上がった。④「子どもの貧困に向き合う」は、昨年度の「子どもの貧困について考える」という講座終了後立ち上がった団体ホットポットの自主企画である。関心が高く定員以上の応募があった。町田市の取り組みや子ども食堂、無料塾実践例についての講義

を行った。⑤「自主保育ってなあに？」では、子どもの発達に関する研究者や自主保育の実践家の講義を受講し、「せりがや冒険遊び場」での体験を通して学ぶ講座を行った。

・家庭教育支援事業運営委員会の設置について。要綱「平成29年度東京都家庭教育支援基盤形成事業実施要綱」に基づいて事業の報償費、保育士賃金について2/3を東京都から補助金を受けている。町田市では、身近な地域における保護者への学習機会の提供や親子参加型行事の実施を中心に取り組んできた。昨年6月の生涯学習センター運営協議会での事業計画の報告と、今回の事業実施報告をもって、家庭教育支援事業の運営委員会の開催に代えさせていただきたい。

・家庭教育支援事業について。①「乳幼児の保護者向け講座」②「幼児の保護者向け講座」③「小学生の保護者のための心理学講座」④「子どもの思春期とゆったり向き合うための講座」の4つを行った。⑤「家庭教育支援学級」は保育の担い手の要請が目的。地域の子育てセンターのボランティア登録を目標に行っている。⑥「mamaゼミ」は連続講座の作り方を学ぶゼミ的なもので、⑦「16ゼミ」は、「mamaゼミ」修了者が新たに模擬的な講座をつくり地域での活躍を目指すもの。幼児の保護者向け講座「ときめきママTIME」を実施。⑧親と子の学びのひろばでは「きしゃぽっぽ」と「パパきしゃ」という地域の人向けの事業を行っている⑨「くるくるロケット」は家庭教育支援学級のメンバーが企画実施するもので、未就学児と保護者を対象とした折り紙を使ったプログラム「手づくりしよう」を実施した。⑩「ファミリーライブ」、⑪「親子参加型事業・人形劇公演『かえるくん・かえるくん』」はこれから実施予定である。

・その他事業について。①昭和薬科大学共済事業「患者中心の医療に向けて」は応募者141人。ポスター・チラシ・講座レジュメが充実した。②利用交流会企画「地域の交流仕掛人」体験講座「地域をもっと元気に！交流を通して楽しく学ぶお手伝い」は全5回実施。参加者29人。「子ども」「障がい者」「シニア」の3つのテーマに分かれて、市内外で活躍する団体を訪ね、調べ、そこから見えてくる成果と社会の課題について学習した。③「『顔ニモマケズ』から考える」④「醸造調味料再発見！味噌・醤油・みりん」⑤「新しい市場のつくりかた」⑥「被災から7年目のいま心のケアをふりかえる」③から⑥は未実施。⑦「学びの機会を保障するには」は夜間中学や無料塾をテーマに全5回実施したが参加者数で苦戦した。

・ひきこもりの事業について。「ひき町」はひきこもり当事者の居場所である。ひきこもり当事者、経験者の会20代から30代の方が集まった。厚生労働省が作成した引きこもりに関するビデオを見る企画を交流会とは別に設けたところ、大勢の参加者があった。また、若者企画の講座で「ひき町カフェ」という取り組みをしている。1年で自主事業団体を立ち上げていただこうとしているが、なかなか町田市内の方の参加が少なく自主グループを町田市内では作れないでいる。もう一年引き続き実施していく。

会長：ここで、担当者の時間の都合上、資料番号を前後して「ことぶき事業」について報告をお願いしたい。

事務局：「ことぶき大学事業・後期」については「写真」・「短歌」・「健康」の3つのコースを開催した。写真と短歌の講座は新しい試みで、新しい方々を呼び込めた。「写真コース」は、野外開催のコースで天候の都合上日程変更があった。肖像権の問題に意識した。手持ちの個々のデジカメは操作方法が様々で、参加者も電子機器・カメラの技術の習得レベルに差があった。また、サークル活動結成にはいたらなかった。「短歌コース」は30名の募集定員だったが、非常に多くの方に楽しんでいただいたが、やはりサークルの結成にはいたらなかった。「健康コース」はホールが工事中だったので、学習室の椅子の上でできる運動やリンパビクスを行った。定番の人気講座で、今回も6倍を超える申し込みがあり、ことぶき大学の中では特に人気がある。

(質問・意見)

委員：サークル化が難しかったということだが、講座終了後に展示は行ったか。

事務局：「写真コース」では最終回の後にミニギャラリーでの展示会は行った。「短歌コース」では発表会を最後に行ったが、どちらも初めての講座で、講座の運営に終始した。自主グループの養成を意識して講座を運営すれば良かった。

委員：生涯学習センターまつりにも展示してはどうか。発表の場を設け、継続するなど、その点を改

善するとよい。

委員：実施事業数が3つと、講座を少なく絞り込んできている理由は。

事務局：例年だと前期・後期の講座があり、前期には通年講座というものもある。今回はホールの改修工事のため、前期に講座を集中させた。申し込みの期間を過ぎたのもう一回開催して欲しいという声に応じて後期を行った。リピーターの率までは把握していないが、昨年度受講した方を除いて抽選をしている。席を多くしてほしい、場を何度か設けてほしいという意見は例年ある。

委員：「写真コース」で講師3名とあるが、ボランティア登録している方に講師を出来る人がいないだろうか。サークル化した時、全く同じレベルの人同士ではなく、「教えてもらえること」を期待すると思うので、自分達より少しレベルの高い人がいると、サークル化しやすいのではないかと。講師の先生では費用も高いので、カメラのできる人が先輩という形で講座のサポートに入ってもらってはどうか。サークル化にもつながりやすくなる。

委員：講座の運営・進行は講師が行っているのか。

事務局：職員が司会進行を行うが、講座の中身は講師が作っている。

委員：ボランティア登録している方にサポートの形で入ってもらい、講座の最初から講座修了後はサークル化につなげたい、という話をした上で進めると、参加する側にとっても心づもりができて、サークル化につながりやすいのではないだろうか。

委員：ボランティア登録のある方向けに、初めに上級コースを開催し、後期の初級コースでスタッフとしてボランティアに入ってもらおうとよいのではないかと。

委員：写真で6回くらいの講座だと、カルチャーセンターと違いがなくなってしまう。サークル化が目的のようだが、それだけではなく、これからは「ソーシャルデザイン」という考え方が必要だと思う。写真を撮るにしても、町田の魅力を撮るとか、老人ホームのお年寄りの笑顔だとか、町田のスポーツだとか、町田の市民に共有、共感できるものを、講座を通じて作っていくことが重要である。これはどの講座についても当てはまる。市民同士の「つながり」「共感」を作っていくことを常に意識した講座作りに取り組んでもらいたい。

委員：「健康コース」についてだが、これほど人気が高いのであれば、保健所等とタイアップした方がよい。

会長：講座の学びを生かし、つなげていくということが重要だという意見等、いろいろ意見が出た。来期に向けて一工夫してもらいたい。

会長：では内容が前後するが、最初に説明のあった、「公民館事業」について、ご意見等お願いしたい。

(質問・意見)

委員：「ひき町」は、特殊な講座だと思われる。町田の参加者の方が少なかったということだが、どこから来ている方が多いのか。

事務局：相模原が多いが、中心になっている方に町田の方も入り始めている。

委員：特殊な講座だと思うので、「さがまちコンソーシアム」を利用するなどして、地域性とは違った配慮が必要かもしれない。センシティブなテーマなので地元での開催は難しいかもしれない。

事務局：実際に運営は横浜で実績のある「ひき桜」という団体のメンバーが行っている。近隣で開催しているところがなく、交通の便の良い町田でやっていることをFacebookなどで知って参加している。中心メンバーに町田の人が入ってきているので、様子は変わってきている。

委員：ひきこもり講座にひきこもり本人に参加してもらうための広報手段はどのようにしているのか。

事務局：「ひきこもる心を理解する講座」は家族の方向けである。当事者のための「ひき町」は広報に時々掲載するほか、ソーシャルネットワークの活用、「ひき桜」メンバーのFacebookやブログ、「ひき桜」が発行している「ひきこもり新聞」への掲載、各種イベントでのチラシの配布等による。昨年と同様に、今年3月1日に行う「自殺対策キャンペーン」のビラと一緒にチラシを入れてもらっている。

委員：家庭教育支援事業の「16ゼミ」で、当事者である母親が「地域での活躍」ということについて、実際にはなかなか難しいのではないかと。

事務局：子育て相談センターと情報を共有しながら、ボランティアになってもらえばと考えているが、

実際には小さい子どもを抱えて地域で活躍するというのは難しく、矛盾を抱えている。乳幼児の講座に比較して幼児講座の応募者が少ない理由は、子どもが幼稚園に入るからであるが、その時期になると母親は働き始める。

委員：ボランティアという点が引っかけが、子どもがいても活躍ができるということで、「ファミリーサポートセンター」の案内をするとよい。

委員：「まちチャレ」の正式な事業名称は何か。

事務局：市民提案型事業「講座づくり☆まちチャレ」である。

会長：地域で行うという初めての試みだが、人は集まっているようだ。

事務局：高齢者向けの健康講座では、高齢者の健康への関心が高いということが顕著になった。

委員：「まちチャレ」の予算について知りたい。

事務局：全体で35万円。1講座7万円で5回開催。

委員：今後ぜひ拡充していただきたい。川崎市岡上でも同様の事業を行っている。生涯学習センターには「人・モノ・カネ」が必要であることをぜひ強く訴えていって欲しい。そのために応援する。

委員：「まちチャレ」の開催場所が町田中心に近いようだが、南町田や相原など中心地以外でも開催するために、地域枠を作ると良い。

会長：では、次に「市民大学事業」について。

(事務局より各担当が説明)

・「多摩丘陵の自然入門」・・・市民大学唯一の通年の野外事業。定員50名に対し、応募者数59名と、毎回人気の講座である。悪天候のため、1回中止となった。講座修了後の振り返りの回には半数ほど参加し、参加者同士の企画づくり、仲間づくりの動きがみられた。2018年度の環境講座は、「環境」のプログラム委員に「自然」と二本立てで企画。

・「環境講座、わたしたちのまちの環境探検」・・・エコ、リサイクル、農業、生物多様性などの1つのテーマに対して座学と現地学習を組み合わせ2段階で学んだ。全9回。40名の定員に対し、32名応募があり、ここ数年で最も多い。前期の受講生のうちの半数の12名が後期も引き続き応募した理由として、農業体験で6月に田植え、11月に収穫ということで前期と後期の講座を連動させたことがある。延べ受講者数は185名で出席率は64パーセント。修了者団体の紹介を通じて、入会したのは2名だった。

・「町田の歴史Ⅱ」・・・明治後期からの町田の通史。定員50名に対し応募者数69名。修了者団体の史考会に入ったのは4人。

・「くらしに生きる法律」・・・「まちだ市民法学」に替わり4月に始まった新しい講座。定員50名には少し足りない46名の応募であったが、仕事帰りの若い受講者もおり、出席率も8割と高かった。次回講座に向け、消費生活や相続など、今後取り上げてほしいテーマが多数挙がった。

・「人間科学講座」・・・今年はテクノロジーについての講座を例年より増やした。定員50名に対し74名と6年ぶりに応募者数が多かった。座学中心に偏ってしまったので、グループワークももう少し入れてもよかったかもしれない。

・「こころとからだの健康学」・・・定員50名に対し、応募者97名と、非常に人気が高い。ホール工事中のため座学中心となったが、太極拳の実技を少し行ったところ、大変満足度が高かった。

・「まちだの福祉」・・・定員30名に対し、今回珍しく定員を超えた34名の応募があった。前期基礎編、後期応用編。市内の福祉施設や特例子会社の見学など、身近な地域福祉の現場を学べるプログラムとした。

・「陶芸入門講座と電動ろくろ体験講座」・・・それぞれの応募者数は、定員24名に対し23名、定員14名に対し17名と今年は例年より多かった。来年度からは市民大学としては実施しない。理由の一つは20キロ窯が古くなって使わない方がよいということ。博物館と協力した講座は検討中。

(質問・意見)

委員：人間科学講座について、応募者が定員を超えたのは、2011年度以来であるという説明があったが、今までそれほど人気のない講座にも応募者が増えた理由は。

会長：テーマが良かったのか。

委員：それもあるが、全体的に応募者は多かった傾向にある。募集期間が少し長かったことが影響しているかもしれない。それぞれの講座でいえば内容をリニューアルした点もあるかもしれない。

委員：町田の歴史など、夜間に開催している講座を今後昼間に開催する予定はあるか。昼間と夜間のバランスを考えて開催してもらいたい。相続の講座などは昼間のニーズがあるのでは。土日の昼間ではどうか。

事務局：現在夜間開催している講座については、働いている方が参加しやすいためという理由で、昼間に開催する予定は今のところない。

委員：法律関連の講座は、講師が弁護士や大学の先生なので、平日昼間は来てもらえないことも多い。

委員：相続税の問題を取扱ってほしい。課税対象が引きあげられ、相続に関する問題が増えているので直接の当事者がいて関心も高いと思う。

委員：市民大学の制度設計としては、同じ人に連続して開催する必要があるが、介護や相続税問題などは親の介護について心配な世代もある。公開講座を幅広く行うとよい。

会長：ことぶき大学同様に、学びの継続・地域への還元という視点で、市民大学と合わせ、考えていきたい。

会長：では最後に「生涯学習推進事業」について。

事務局：『生涯学習 NAVI』・・・構成についてアンケートを行ったので、見やすい紙面づくりのためにリニューアルを検討中。また、昨年10月から、市のホームページの子育てサイトに家庭教育支援事業を掲載し、活用を図る。

・「学習相談」・・・職員のノウハウに頼る部分が多く、引き続き、相談業務については検討中。

・「社会教育関係事業講師派遣制度」・・・昭和57年から続く制度で、講師謝礼をお支払いする制度であった。利用団体が9割固定化されているので、あり方について内部で検討した結果、今後は「まちチャレ」や「ボランティアバンク」といった人材バンクの充実を図ることとし、民間の補助金制度もあることから、当事業については今年度で終了した。

・「生涯学習ボランティアバンク」・・・今年度は地域での開催を目指し、3水スマイルラウンジやぽっぽ町田での健康フェアを行った。3月のセンターまつりの中で3日間のイベントを開催する。イベントの集客から、いかに利用申請へとつなげるかが課題。ボランティアの方の活躍の場として、事業の中に入っていく方法も検討したい。

・「連携組織」・・・生涯学習連絡会「お悩み解決 LAB0」を2回開催。研修のような形で、今年度は大学連携をテーマに学生と職員のコミュニケーションづくりを行う。

・「さがまちカレッジ」・・・生涯学習センターで行っていた事業を、春にはなるせ駅前市民センターで、下半期には子どもセンターで2回開催した。大学連携を意識し、「子どもセンターただON」は麻布大学と、「子どもセンターぱお」は東京家政大と連携して講座を開催した。生涯学習センターとしてつなぐ役割をした。3月には学生活動報告会を行う。

・「施設の貸出し」・・・ホールの工事の関係で利用率、利用者数は減少している。今年度から個人利用が可能になり、個人の利用は少しずつ増えている。

・「特別教室」・・・小学校3校と中学校を1校開放している。約5.7パーセントの利用率。利用率の向上は課題だが、施設の活用として、今年度はまちチャレの講座の事業を試みに行った。

(質問・意見)

委員：以前に講師派遣制度を活用させていただいた。この分の年間予算はどこへいくのか。

会長：固定化している団体とは具体的にどのようなものか。

事務局：「まちチャレ」に増額する形が一番大きい。予算上は50団体設けており、40団体に満たない利用。固定化している団体としては、多いところでは図書館の団体、PTA、個別のテーマで地域で開催している団体等である。講座の講師も固定化している。

委員：補助金を渡した後は、団体が自由に講座を運営できる仕組みで優れた制度だったので、終了するのは残念である。廃止に関する案内をするということだったが、それについて何か意見があったか。

事務局：今のところ特別にはない。

委員：生涯学習センターの主催事業の中で、民間補助の活用方法について懇切丁寧なアドバイスをし、市民グループが自分たちで活動資金を得て、地域の生涯学習が振興していくよう支援してもらいたい。

委員：『生涯学習 NAVI』の予算はどれくらいか。

事務局：1部400円前後程度で人件費、紙代・インク代等を含む。5000部発行している。

委員：講座の検索ができる無料のアプリを利用している市町村や、NPO 団体もある。紙は手間がかかるので、検討してはどうか。

事務局：まとめアプリのようなものもある。サイトも検討した時期があったが、予算の問題があり、進まなかった。

センター長：情報発信について様々な取り組みは考えられると思うが、一方でパソコンを使えない高齢の方にも配慮して、紙媒体は今しばらく必要である。

委員：放送大学がスポンサーとなっていたが、今も行っているか。地域の大学が寄贈してはどうか。

事務局：年4回のうち、2回は放送大学のPRの時期と重なっているので、カラー表紙を寄贈いただいている。

委員：活躍の場がないと、せっかく登録しても残念である。生涯学習ボランティアバンクについて色々工夫してもらいたい。活動年数に応じて表彰状や感謝状を贈るとよい。

会長：講師派遣制度は、地域の学習を支援していくという目的があった。今後枠組を変えても、新しく活動を立ち上げようとしている人たちへの支援について、全体としては検討していただきたい。

事務局：資料の訂正について。「まちチャレ」の参加者数の訂正で、④「子どもの貧困に向き合う」の延参加者数は（誤）12人→（正）120人である。

議題

2. 報告書案の検討

会長：では後半は、報告書の議論について行いたい。

今回いろいろな「役割と機能」を議論する中で、地域における学習支援についてフォーカスを当てた形でまとめたという意味でのタイトルである。「はじめに」の部分の段落最後の部分について、課題を「生涯学習センターの役割と機能」としていたが、話し合いを進める中で、テーマを「地域」に絞った。

※報告書案について、文章の意味、表現及び表記について委員から意見や質問が出て、修正を行った。

（その他主な検討内容や意見等）

- ・社会教育の場合は課題を誰が設定するかが重要だが、今期の会議では「生涯学習センターの役割と機能」について話し合うことが設定されていた。しかしながら実際のところで、「役割と機能」の中の「地域の問題」について話し合ったのだから、タイトルも「地域における学習支援」とすればよいのでは。流れがわかりやすくなり、「役割と機能」の中の今回はその一部をやるということがわかる。

- ・前期運営協議会までの課題を記載するのであれば、どのような検討を行ったのか記載したほうが良い。どこまで出来ていて、どこまで出来ていないか書き加えた上で「地域」に焦点を絞った旨まとめてはどうか。

- ・生涯学習センターの課題について、第3期で意見として出されたものを巻末資料として掲載する。
- ・「地域学習」は伝統のある用語なので、「地域における学習支援」という表現に変更させていただいている。

- ・「学習」をどのようにとらえるか。「役立つ人」でなくてはいけないと受け取られてしまう恐れが

ある。

- ・「人財を社会に生かすことを目標に」という表現を「自ら学んだことを社会に生かしたいと思えるような社会」というニュアンスにしたい。
- ・「地域における学習の場があること」という記述について、そのような学習の場を広げて地域の施設を生涯学習の拠点としていくために生涯学習センターが何を出来るか、ということが重要なので、埋もれてしまわないように記述したい。
- ・生涯学習センターが「地域の拠点を支援する」という内容を入れたい。
- ・地域の生涯学習の拠点を支援するという意味では、地区協議会も含めて重要なところなのでもう少し強調したい。職員が地域に出ていくということも大切である。
- ・公共施設の再編などの流れに任せるだけはいけない。
- ・まちづくりを考える中で、学習の意味について見直し、生涯学習センターの意味が何であるのか、という部分を書いた方が良い。
- ・全体的に社会教育の予算がカットされる中、まちづくりにとって、生涯教育に人とお金を充実させることで、結果的には町田が良くなることをもっと強調したほうが良い。学習支援者側にも、研修などの学ぶ機会を持たせるのが必要で、その点をもっと書き込んだほうが良い。
- ・市民のために活動する教育全体にかかわることを行っているのは生涯学習センターだけである。社会教育が縮小すると、市民のために活動する市民委員がいなくなることになる。
- ・新しい課題を見つけ新しい時代に対応して行動する人たちと、そこから知識が創造されて新しい施策を生み出していくような役割を社会教育が培ってきたことをもっとPRした方が良い。
- ・巻末資料に各委員の意見を載せる。

会 長：ワーキングチームで加筆修正し、原案を作り、メールで確認をお願いすることについて了承を得たい。先にメールで25日までに各委員から意見を提出してもらい、27日正副会長で検討・調整し、3月2日～3日頃に各委員にフィードバックし、3月6日の作業部会で最終案をまとめる。

3. 報告事項

(1) センター長報告

センター長：2月3日の都公連研究大会には、生涯学習センターから市民・運営協議会委員・職員など14人に参加いただいた。

(2) 東京都公民館連絡協議会の活動について

委 員：第54回都公連大会の委員部会では、アンケートの感想結果では、概ね満足いただいた。全体で227名の参加があった。来年度の第55回都公連研究大会は2月の東大和市で開催する。

会 長：「公民館の価値をみつめなおす～住民とともに公民館を「評価」する実践」という分科会に参加した。「評価」の法律的な背景を学び、「評価」の本来の目的は合理化だけではなく、次につなげて改善するための場であることが大切という話であった。

次回は3月19日（月）3時～5時開催する。